

高齢者の皆さんへ 気軽に健康チェック&困りごと相談 「健康相談会」に参加しませんか？

買い物のついでに
寄ってみようかしら？



地域包括支援センターの職員による「健康相談会」です。血圧測定や骨密度測定などの健康チェックのほか、困りごとの相談などを受け付けます。

ウエルシア東海舟石川店のウエルカフェスペースで開催しますので、買い物のついでに、ぜひ気軽にお立ち寄り下さい。

日時▼9月22日(木)午後1時～3時

場所▼ウエルシア東海舟石川店(舟石川駅西2-9-12)

対象▼村内在住で65歳以上の方

参加費▼無料

その他▼新型コロナウイルス感染症の拡大防止

のため、中止・延期となる場合があります。

問い合わせ▼北部地域包括支援センター(いばらき診療所内 ☎229-2315)、南部地域包括支援センター(特別養護老人ホーム オークス東海内 ☎352-2867)※事前申し込みは不要です。

ふるさと歴訪
〜歴史を再発見〜

真崎浦干拓の終了〜西野長治郎〜

前東海村教育委員

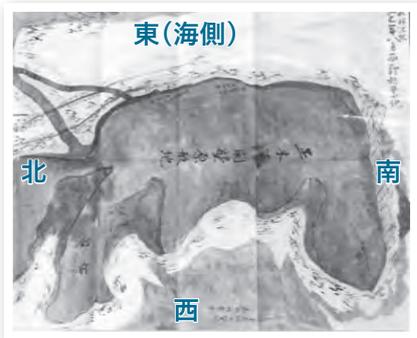
西野 晉哉

安政3(1856)年に始まった真崎浦干拓は新川の開削に始まり、細浦の排水路の掘削等により、徐々に水位を下げ耕作地ができるようになっていきました。

そのように干拓が進んでいた時代、水戸藩内では、藩主・徳川斉昭の藩政改革に反対していた門閥派(諸生派)が勢いを増していきました。

幕命による斉昭の強制隠居や、安政大地震(安政2(1855)年10月2日)で藩政改革の指導者である戸田忠太夫・藤田東湖の両名が逝去し、その後斉昭が永蟄居中に急死。藩政は門閥派に掌握され、武田耕雲齋を首領とする天狗党が最後の拠点を湊村(現・ひたちなか市)に置き、門閥派と戦ったのが、「元治甲子の変」(天狗諸生の戦い)「元治元(1864)年」です。

このとき天狗党は同志を集めるべく耕雲齋からの呼び掛けを行い、真崎浦干拓を進めていた西野長治郎にも声が掛かりました。長治郎はやむなく干拓を中断して参加し、湊村平磯の聴法寺に湊村



【西野長次郎が作成し残した絵図「真崎浦開墾原形地」】

東部の士民を呼び集めました。天狗党は敗れ降伏しました。長治郎はいったん逃れるも捕らえられ、水戸の獄舎で病死しました。慶応2(1866)年6月、48歳の時でした。村松にあった留守宅は長治郎が平磯に行っている間に、暴徒化した門閥派により焼き打ちに遭っています。

その後干拓が再開されたのは、長治郎の長男、西野長次郎が明治2(1869)年に帰村した後です。

長次郎は干拓継続を茨城県に願い出て、明治4(1871)年に許可を受けました。しかし県は、明治6(1873)年に鍋木辰五郎にも開墾権を認めたため、長次郎は県に対し、鍋木の開墾権の許可の無効を裁判所にまで訴えました。が、敗訴しました。

これをもって西野長治郎および長次郎の干拓事業は終了し、西野に認められた開墾地は、従前より事業に参加してきた人たちに分けられました。

※歴史と未来の交流館では、9月30日(金)まで企画展「絵図から見る真崎浦の干拓」を開催しています。この機会に、ぜひお越しください。